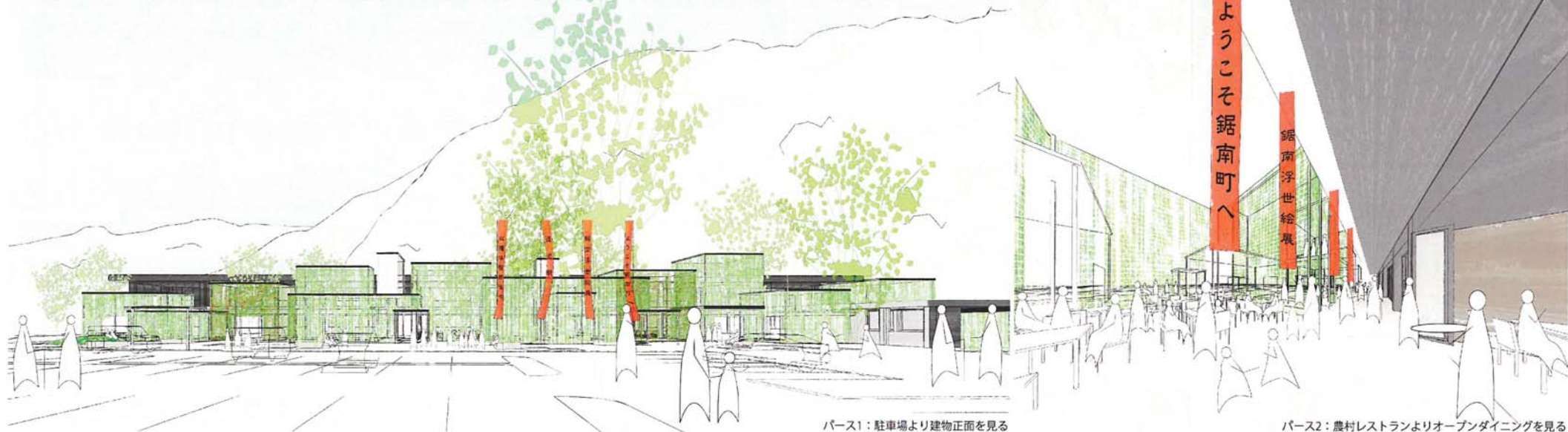


## 地域の知恵を集めてつくる「緑の箱」

私たちは山々に囲まれ豊かな海にも至近の「ポテンシャルある場所」に、グリーンボックスという「人々の交流のための容器」を計画します。私たちが考えるのは「賑わいの仕掛け」を作り出す為の装置です。この建物群は「山の恵み」と「海の恵み」を取り込む為の装置として機能し、人々の賑わう「状況」を作り出し、館南町地域活性化の新しい拠点として、町の人々と都市から来る人々を繋ぎます。



パース1：駐車場より建物正面を見る

パース2：農村レストランよりオープンダイニングを見る

### 01 地域の知恵を集めてつくるランドマーク

ランドマーク性—南岸地の玄関口として、ランドマークとなる提案—

館南町の「豊かな自然環境と温暖な気候」と「主要な産業である農業、漁業、観光業それぞれの知恵・技術」を最大限活用し「グリーンボックス」「連なる屋根」をつくります。館南町にしかない、館南町ならではのランドマークとなると考えます。

#### ■「グリーンボックス」

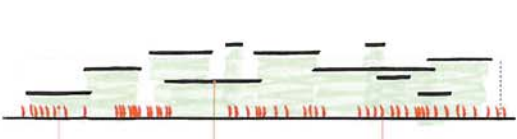
館南町の主要な産業である「農業」「漁業」「観光」それぞれの知恵、技術を活用し「グリーンボックス」をつくります。

「漁業」の知恵と技術で網を張り、「農業」の知恵と技術で植物を育て、「観光」の知恵で人々の交流の場を運営します。

この、地域の知恵を集め、みんなで作る緑のランドマークは、周辺の山々の風景と調和する、館南町ならではのランドマークとなると考えます。

#### ■「連なる屋根」

館南町の冬暖かく、夏はカラッとしたのびやかな海洋性気候の特徴を活かし、都市交流施設を訪れる人が施設の内外を自由に往来し、心地良い場所を見つけ、思い思いにくつろぎ滞在する事ができる「半屋外空間」をつくります。この、小さな屋根がいくつも集まり、連なる事でつくる大きな屋根下の半屋外空間に広がる人々の活動は、館南町を象徴する公共空間となると考えます。



グリーンボックス：館南町の知恵と技術でつくり、館南町ならではのランドマークとなる。

連なる屋根：小さな屋根がいくつも集まり、連なる事でつくる大きな屋根下の半屋外空間。

快適な半屋外空間に広がる人々の活動。ダイアグラム

### 02 地域の文化拠点となる景観づくり

ランドスケープ—周辺環境と調和した魅力的なランドスケープの提案—

長狭街道（県道34号線鴨川保田線）沿いには、周囲の自然環境と調和した寺社仏閣が多く見られます。

本計画においても樹林に囲まれながら、地域の文化拠点となるような景観づくりを目指します。

#### ■地域で育む「グリーンボックス」

通年を通し、緑の潤いを楽しみ地域の名所となる壁面緑化の計画を行います。グリーンボックスの樹種は多年草（フジ、カズラ、ムベ、クレマチス等）と一年草の植物（ゴヤ、アサガオ、ヘチマ等の一年草）を混植し、季節の変化を楽しむことができます。一年草の植物については、住民参加による植樹等のイベントを行う等地域のコミュニティ形成に寄与することができます。

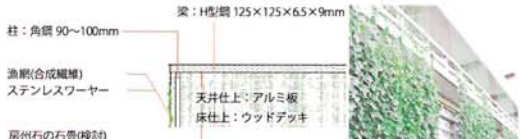
#### ■緑による記憶の継承

これまで親しまれてきたサクラ等をはじめとする既存樹木は、保存もしくは移植を行います。

枯損した樹木や老木については、可能な限りベンチやマルチング等に再利用する計画を行います。

#### ■地域資源を活用した空間整備

デッキテラスには地域の木材を利用し、イベント広場には房州石の使用を検討し、地域資源と技術を活用した整備を行います。



断面図 S=1/100

緑化イメージ

### 03 快適な半屋外空間（連なる屋根）

サービス提供施設—各種サービスを提供する場として、地域住民が働きやすく、かつ施設運営事業者やテナントにとっても魅力ある施設にする提案—

各種サービスを提供する場として、入居するテナントが飲食スペース等として内部との一体利用も可能な「半屋外空間」、訪れる人が駐車場から自由にアクセスすることができる「多様なアクセス」を計画します。

#### ■内部(既存校舎)との一体利用可能な半屋外空間

屋根とグリーンウォールによって、雨風と強い日差しから程よく遮られた半屋外空間は、入居するそれぞれのテナントが内部との一体的な利用や運営も可能な計画とします。

カフェテラスやオープンダイニング等として、館南町の温暖な気候や自然環境を活かした、快適な飲食スペースとしての利用が可能となっています。

#### ■既存校舎への多様なアクセス

駐車場から既存校舎へは、イベント広場、インフォメーションまたは屋根下の半屋外空間を経てアクセスする計画とします。

屋根下の半屋外空間には多数の入口を設けると共に、それぞれの屋根同士を連続して行き来できる計画とすることで、訪れる人が自由な経路を選択し、既存校舎へアクセス可能な計画とします。

また、屋根下の半屋外空間から既存校舎内へはバリアフリーを基本とし、直接アクセス可能な計画とします。



平面図 S=1/2500

### 04 「農・食・遊・学」

小さな子供連れ対応—小さな子供連れにとって魅力ある施設にする提案—

施設を訪れる年齢の異なる子供たちが、それぞれの年齢に合わせて製作体験や収穫体験等を行う事で「農業・食・遊び・学習」を一度に行う事が可能な、館南町ならではの体験型都市交流施設を提案します。

#### ■遊びながら学ぶ

グリーンボックスを中心として、植物の植樹体験、グリーンボックスに育成するゴヤの収穫体験、周辺の農家と連携した農業体験等、訪れる人が館南町ならではの体験をしつつ、地元の人と交流可能な計画とします。また、工房及び半外部の製作スペースでは、木工や魚網等を利用した工作体験等により、1日遊びながら学ぶ事が可能な計画とします。

#### ■小さな子供のための安全な遊びスペース

玩具、遊具により未就学児を安心して遊ばせる事が出来る、キッズスペース、子供広場、芝広場をつくります。

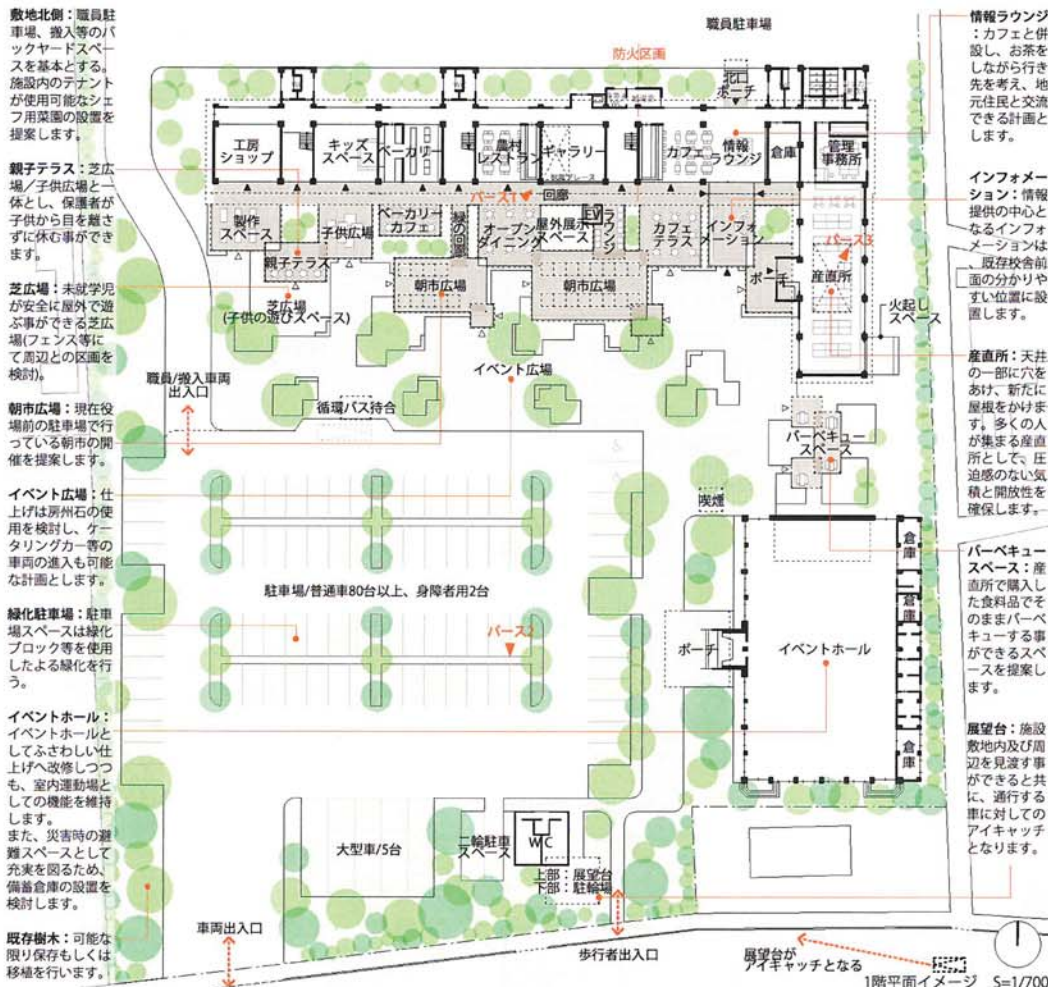
#### ■基本的な「設備」の充実

ユニバーサルデザイン／バリアフリーを基本とし、ベビーカーでも施設内を自由に行き来可能な計画とします。また、小さな子供連れの方が、授乳や調乳、おむつ替えができるスペース等をつくり、小さな子供連れの方のための基本的な設備を充実させます。



平面図 S=1/1000

体験イメージ



**敷地北側：職員駐車場、搬入等のバックヤードスペースを基本とする。**施設内のテナントが使用可能なシェフ用菜園の設置を提案します。

**親子テラス：芝広場/子供広場と一体とし、保護者が子供から目を離さずに休む事ができます。**

**芝広場：未就学児が安全に屋外で遊ぶ事ができる芝広場(フェンス等にて周辺との区画を検討)。**

**朝市広場：現在役場前の駐車場で行っている朝市の開催を提案します。**

**イベント広場：仕上げは房州石の使用を検討し、ゲータリングカー等の車両の進入も可能な計画とします。**

**緑化駐車場：駐車場スペースは緑化ブロック等を使用しよる緑化を行う。**

**イベントホール：イベントホールとしてふさわしい仕上げへ改修しつつも、室内運動場としての機能を維持します。また、災害時の避難スペースとして充実を図るため、備蓄倉庫の設置を検討します。**

**既存樹木：可能な限り保存もしくは移植を行います。**

**職員駐車場**

**防火区画**

**情報ラウンジ**：カフェと併設し、お茶をしながら行き先を考え、地元住民と交流できる計画とします。

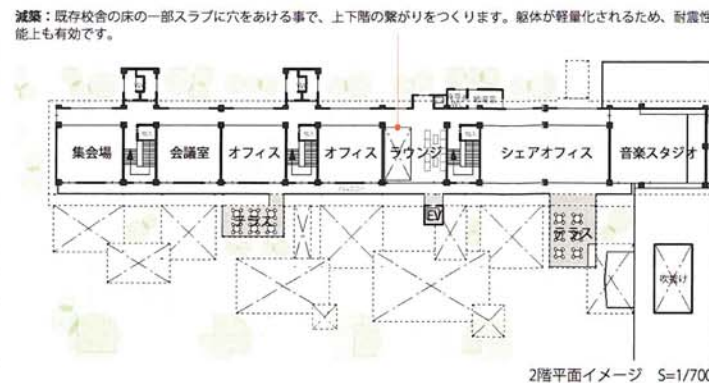
**インフォメーション**：情報提供の中心となるインフォメーションは、既存校舎前面の分りやすい位置に設置します。

**産直所**：天井の一部に穴をあけ、新たに屋根をかけます。多くの人が集まる産直所として、圧迫感のない気積と開放性を確保します。

**パーベキースペース**：産直所で購入した食品でそのままパーベキースペースができる事ができるスペースを提案します。

**展望台**：施設敷地内及び周辺を見渡す事ができると共に、通行する車に対してのアイキャッチとなります。

**1階平面イメージ S=1/700**



**建築概要**

敷地面積：14,353㎡  
 既存部延床面積：2,860㎡  
 ・本校舎：2,061㎡  
 ・体育館：799㎡  
 新築部床面積：932㎡ <2,061㎡/2  
 ・室内面積：63㎡  
 ・半屋外面積：869㎡

新築部構造：鉄骨造  
 \*既存構造体とはエキスパンションジョイントにて分離。  
 規模：地上2階

**防災拠点として**  
 屋根下の半屋外空間は、災害時の避難場所として有効に活用できます。また、井戸の掘削を検討し、平常時は散水に、災害時はトイレ中水として使用できる計画とします。

**連なる事で強くなる構造計画**  
 新たに付加する屋根とそれを支える構造は、鉄骨造のラーメン構造とします。折り重なる屋根や家具によって柱の途中に低いフレームが取り付けられることになり、ラーメン構造を強くする効果が生まれます。これによってブレース(筋交)を設ける必要もありません。さらに、梁は屋根を軽量化することによって、屋根板は薄く、柱は細く構成することができ、視線を遮らない構造で覆われた広々とした空間を形成することができます。軽量化によって基礎への負担も少ないこと、簡素な構成であることによって、コスト的にも有利な構造となっています。

**構造部分解析モデル**  
 Safety Level: Human  
 梁: H型鋼 125×125×6.5×9mm  
 柱: 角鋼 90~100mm  
 最大部材: 柱、梁、ブレース、壁  
 Input: krsn01.inl  
 Output: krsn01.out  
 Case: 1.0, 2.0, 3.0, 4.0, 5.0  
 Pst: 1.0, 2.0, 3.0, 4.0, 5.0  
 Pst: 1.0, 2.0, 3.0, 4.0, 5.0  
 Pst: 1.0, 2.0, 3.0, 4.0, 5.0  
 Pst: 1.0, 2.0, 3.0, 4.0, 5.0  
 Pst: 1.0, 2.0, 3.0, 4.0, 5.0

**建築概要**

敷地面積：14,353㎡  
 既存部延床面積：2,860㎡  
 ・本校舎：2,061㎡  
 ・体育館：799㎡  
 新築部床面積：932㎡ <2,061㎡/2  
 ・室内面積：63㎡  
 ・半屋外面積：869㎡

新築部構造：鉄骨造  
 \*既存構造体とはエキスパンションジョイントにて分離。  
 規模：地上2階



### 05 展望台/カフェ併設の情報ラウンジ

交通・情報拠点—交通拠点及び情報拠点として、町内外からの集客や町内への送客に寄与する提案—

**■展望台**  
 敷地南側には、施設敷地内及び周辺を見渡す事ができる展望台をつくります。また、展望台の四周はグリーンボックスとなっており、長狭街道(県道34号線鴨川保田線)を通行する車に対してのアイキャッチとなります。

**■カフェ併設の情報ラウンジ**  
 カフェと情報ラウンジを併設することで、施設を訪れる人がお茶をしながら交通、観光情報を知り、行き先を考える事ができる計画とします。町を訪れる観光客の方と地元の人との交流のきっかけとなると共に、地元の人が町を改めて知り、町のこれからを考えるきっかけにもなると考えます。

既存樹木は保存もしくは移植し、最大限活用します。

長狭街道(県道34号線鴨川保田線)を通行する車に対してのアイキャッチとなります。

展望台からは、施設敷地内及び周辺を見渡す事ができます。

既存体育館は、外装を改修し、新たな設えとします。

**敷地正面側立面図 S=1/1200**

### 06 建設コストの有効活用、LCCの削減

予算配分・価格低減—工事費予算に適合させるための予算配分と価格低減の工夫についての提案—

**■建設コストの有効活用(あるものを活かし、ないものをつくる)**  
 予算配分の基本的考え方は、既存の「室内空間」である校舎を最大限活用しつつ、都市交流施設として必要な「半屋外空間」を中心に新たに、建設コストの有効活用を図ります。また、グリーンボックスには地元の身近な材料である魚網を使用すると共に、植物の種類を高さや管理の頻度等に合わせて適切に選択する事で、低コストかつ維持管理が容易な計画とします。

**■LCCの削減**  
 「連なる屋根」「グリーンボックス」は、快適な半屋外空間をつくり出すと共に、既存校舎の環境を向上させる事で、空調等に必要エネルギーを削減します。

建物全面は、車両の進入も可能な仕様とし、ゲータリング、イベント等の開催が可能な広場とする。

レストラン等の既存校舎内部との一体的な運営も可能となる半屋外スペース。

長手方向を自由に行走でき、テナントへ直接出入りが可能な回廊。

建物北側には職員駐車場、シェフ用スペース、職員用エントランス・ポーチを配置する。

**1階平面イメージ S=1/700**

### 07 地域住民の想いをかたちにする設計プロセス/新たな町の名所として/まちのトータルデザイン

独自提案

**■地域住民の想いをかたちにする設計プロセス**  
 完成後の活動の主役となる地域住民と協働し、地域の方々の想いをかたちにするプロセスを大事にします。ワークショップ/整備検討委員会等を開催し、地域住民や運営事業者と共に、必要な機能、使い方、空間の大きさや面積等、一緒に考えて設計内容に反映できるように設計プロセスを提案します。

**■柔軟性を持った空間形式の提案**  
 住民参画の設計プロセスを実現するために、柔軟性を持った空間形式の提案をします。四角形の屋根が連なる空間形式は、屋根自体の形や大きさ、高さ、位置と一緒に考える事ができると共に、様々な機能や使い方を検討し、様々な繋がり方をつくる事ができます。

**市民参加型ワークショップイメージ**

**形式ダイアグラム**

- 屋根(室内)
- 屋根(半屋外)
- 芝生/植栽

**■新たな町の名所として**  
 グリーンボックスをつくることでできる風景や活動は、現在の館南町にある「頼朝桜」「くづれ水仙郷」等と並ぶ、町の新たな名所になると考えます。

**■まちのトータルデザイン=サイン計画**  
 館南町にふさわしい、町・施設のブランドづくりに積極的に取り組みます。町の掲げる理念を表出するシンボルマークや書体、色彩計画、施設内外のサイン計画、ウェブサイト、パンフレット等の発行物等に至るまで、町を訪れる方に愛される都市交流施設拠点施設をつくりあげるための「まちのトータルデザイン」を提案します。

**サイン計画例/弊社実績の自然学習施設にて**